

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900263		
法人名	アークエム株式会社		
事業所名	グループホームゆう希苑まごめざわ		
所在地	船橋市上山町3-616-1		
自己評価作成日	令和4年12月12日	評価結果市町村受理日	令和5年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	令和5年3月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の方々の健康面に関して、体調不良や発熱などの状態変化があった時は、訪問診療と連携して迅速に対応しています。ターミナルケアに移行されても日々のケアでお元気になられています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①法人理念「家庭的な環境の中で安心と尊厳のある生活」等を掲げ、利用者の自立に向けたサービス改善に全職員で取り組んでいる。②利用者同士が協力しながら、穏やかで家庭的な日常生活が営まれ、職員は見守る介護に努め、必要な場面ではさりげない支援が行われている。③職員は日々より良いケアについて意見を出し合い改善に努め、ボトムアップを重視し職員意見を大切にする職場は働き甲斐に繋がりが長く勤めている職員が多い。④ホームではコロナ禍でも近所の方から差し入れや馴染みの移動販売の訪問、小学生が庭の芋ほりに訪れるなどの交流が行なわれ、利用者の喜びとなっている。⑤施設長は地域福祉サービス向上のために、地域多職種連携等に参加し、地域包括センターと協働して取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有として、玄関に掲示しています。実践としては、苑で作った料理を提供し、一緒に塗り絵や飾りを作ったり、本人の要望に応じた買い物を代行しています。	理念「家庭的な環境・個人の能力に応じた・地域コミュニティの中で・」等を掲げ、職員は常に見守り、必要時は静かに手を差し伸べながら、一人ひとりの利用者がその人らしく生活が出来るよう支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くにある鍼灸院で、野菜の直売があり、利用者の方と一緒に買い物行きました。	近所の製麺所から差し入れや移動販売の訪問、小学生がホームへ芋ほりに訪れるなどの交流が行なわれている。ホーム長が地域多職種ネットワークに参加し、有識者の方々と地域高齢者福祉の向上に向けて取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お芋の収穫のときに職員とその子供たちで収穫して、利用者の方にはその様子を見て喜んでいました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加して頂いている鍼灸院さんからの紹介で畑が欲しい方がいて、定期的に畑を作りにきてくれます。	運営推進会議はコロナ禍のため書面開催とし、ホーム職員のみで2カ月ごとに入居者、職員、行事、身体拘束、コロナ対策、事故報告などを議題に話し合いが行われている。	前回の目標達成計画に取り上げた課題、運営推進会議を活用し外部の意見を得る取り組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	職員がコロナの陽性になったときにはすぐ連絡をして、対応などできました。	コロナ対策で市役所介護支援課と協働で取り組んでいる。また、市主催の研修会に参加しアドバイスを得ている。生活に困窮した高齢者の救済を生活介護課と協力し合って取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	苑から前の道路は交通量の多いところで、玄関は施錠しています。2階は階段が急なので、中から開けにくい工夫はさせてもらっています。	身体拘束廃止に取り組み、工夫と努力によって事例はない。管理者は職員会議の中で「どのような行為が身体拘束になるのか」具体的な事例をあげて、職員同士話し合い、理解を深める取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修資料の配布などで防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	言葉の意味や制度について職員会議等で学ぶよう知識の向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時利用者や家族の方からの質問、疑問については理解されるようにお話をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に投書箱を設置している。新型コロナウイルス感染防止の為、年1回の家族会とご家族の面会は制限している。よって定期的にお電話にて状況報告の際などにご意見を伺っている。ご意見があった場合には職員会議にて報告し運営に反映させることもある。	家族来訪時や家族の方から電話を頂いた時に意見や要望を把握するように努め、頂いた意見・要望はミーティング等で全職員に報告され運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議、もしくは随時、意見や提案を聞く機会を設け運営に反映させています。	「個人の能力に応じた自立した生活」の理念の基、職員は日々利用者のより良いケアについて意見を出し合い改善に努めている。職員からは多くの提案が出され、職員意見を大切に職場は職員の働き甲斐に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇は全消化してもらうなど働きやすい環境になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年無資格で入職した職員には積極的に外部研修を受けてもらっている。最近入職した職員は未経験なこともあり、別の階でも研修し、基礎的なことも深く学べるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の管理者の方に入退居についての相談や、困難のケースについて、対処の方法など参考にさせてもらったりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の生活歴や性格等を知り、その方に合う話し方や接し方に心がけているが入居後、環境の変化に伴いニーズ等が変わる事もあるので入居前の情報にとらわれず柔軟に対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今年は新規入居がなかったですが、丁寧に会話を重ね、不安なことや要望などお聞きできればと考えています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の説明するときに使えるサービスや、必要になりそうなサービスはお伝えしていこうと考えています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	タオルを無くされたと本人の訴えに対して、話し合いをして、洗濯物を出したときにメモをしてくれるように説明し、それをお互いに確認しましょうとお話しました。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	急な体調変化や病院に受診が必要な時は家族の方に連絡し、緊急搬送や入院の意思なども再度確認しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	TVなどで本人に関わりある話題などがあつたときは積極的に話しかけたりしています。ある方は定期的にご家族と手紙のやり取りをされています。	コロナ禍ではあるが、ご家族のみ短時間面会が行われ、受診時に好物の和菓子を購入するなどの支援が行われている。ご家族から好きな本の差し入れや手紙のやり取り、職員のサポートを得ながら携帯で家族との会話を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲良しの方同士で過ごせるように食席を考えたり、夫婦で近くに座るようにしたりしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族とも電話でご様子を聞いたり、いつでも連絡してくださいと声掛けしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりお話しして希望や意向の確認しています。困難な方には家族様の意向を確認しながら本人本位になるようにスタッフと検討するようにしています	職員は普段の会話の中から利用者の希望や願いを引きだす支援が行われている。ここでの様に暮らしたいか、日々の小さな情報を積み重ねその人にとって暮らしやすい生活ができるように支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、ご入居前のケアマネジャー等から情報を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何が出来て何が困難になってきたのかを常に観察、そして正確に把握し残存機能を最大限に利用できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、往診医などの情報を参考にし、カンファレンスや申し送り時に意見や方法等を話し合い、介護計画の作成に活かすよう努めている。状態に変化が見られた時はモニタリングをしてプランを変更している。	細かい気づきを大切に、職員同士で常に話し合いが行われている。全職員でモニタリングを行い支援を振り返り、より良いサービスに繋げるよう努めている。状態変化が見られた際は、介護計画の変更を行い職員全員が共有し支援に努めている。	家族アンケートでは介護計画の説明・話し合いについて不十分との声が多く、更に丁寧な説明が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や身体的変化、ご本人の様子等個別に記入し職員会議等で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な体調変化や病院に受診が必要な時は家族の方に連絡し、ご家族が対応困難な時は職員が対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で外出ができなかったので、買い物に行きたい方には通販のカタログで欲しいものを個人的に買ったりできるようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療医の月2回の訪問にて日々の様子を訪問診療医に的確に伝え、近況報告にて状況報告をご家族に行っている。	月2回の訪問診療医による診察と状態変化時や緊急時にも施設職員との連携を図りながら迅速な対応が行われている。また、義歯調整や口腔ケアに関しても訪問歯科医により実施されており、必要に応じて適切な医療が受けられる体制が整備されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に異変があれば訪問看護師にいつでも相談できる環境がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、訪問診療医と連携し、紹介状を含めた情報提供、スタッフからの日々の情報提供(サマリー)を都度行っている。退院時には病院のソーシャルワーカーとの連絡を密に取り、退院カンファレンスをできる限り行っていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについて正確に説明を行っている。また、入居後の状況報告を行いながら、重度化された際はご本人の最良なケアが提供できる施設への支援を含めた話し合いをご家族と行っている。	重度化した場合における医療体制指針を備え、入居時には丁寧な説明が行われている。利用者の心身状況の変化に応じて、医師より説明を実施し、チームでの話し合いを行い、本人および家族の意向を尊重しながら適切な選択ができるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変対応マニュアルの周知・徹底と主治医への報連相を行い、実践力を身につけるべく取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施している。昼間帯・夜間帯それぞれの迅速な非難ができるよう対策を行っている。来年度は水害・地震想定も行う予定。	年2回の防災訓練は、日中および夜間の火災を想定して、通報、初期消火、避難誘導の総合訓練が行われている。また、施設敷地内の備蓄倉庫には、発電機が備えられ、オムツ、飲料水、食料品などを備蓄しており、賞味期限管理も実施されている。	防災訓練については、居室におけるコンセント火災や地震におけるライフラインが止まった場合などの想定についても工夫されたい。また、BCP(事業継続計画)についての職員勉強会についても計画することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カンファレンスなどにて日々のケアの振り返りを行い、一人ひとりの尊厳を尊重し、誇りはプライバシーを損ねない言葉かけや対応をするようスタッフで共有しおこなっている。	一人ひとりの人格を尊重するため、職員都合にならずに利用者の思いに寄り添うことを心がけ、カンファレンスにおいても不適切なケアになっていないか振り返りが行われている。現在のマスク生活において、表情で伝えにくいため特に声かけについて配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の症状が進行した方でも、日常生活の中で、選択肢を提示しなるべく自己決定ができる機会をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・入床時間や入浴等、一人ひとりのアセスメントを通してケアプランに活かし、利用者個々のペースに合わせて実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品を行っている方もいて、その人らしい生活を支援している。定期的に訪問理美容が訪問している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け食器拭き等、認知症になってもできることを大切にして、ともに生活を作りあげられる様に行っている。また、食事イベントの計画を利用者様の意向を聞き、計画している。	食器洗いや料理の味付け、盛り付けなど得意なことややりたいことを自主的に行うことができるよう職員は心配りをしている。また、寿司やピザ、中華料理を地域の店よりデリバリーしたり、蒸かしイモやケーキを作るなど様々な工夫で食事の楽しみに取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量・水分量を記録に記載し、日々の一人ひとりの体調や習慣に注視し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状況に応じた口腔ケアの実践を毎食後に実践し、気になることがあれば記録に残し、チームで共有できるようにしている。コロナ禍の影響で本年度は定期的には来訪できてはいるが、訪問歯科の訪問にて口腔内の様子観察を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて一人ひとりの排泄リズムを把握し、誘導や声掛け等個々に合わせた支援をおこなっている。	利用者一人ひとりの心身状況に応じて、なるべくトイレでの排泄が可能となるように前向きに取り組んでいる。それぞれの排泄動作や排泄パターン等の把握はもちろんのこと、本人のタイミングを大事にし自立支援に資するよう見守りを含めた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問看護師等へ相談し、一人ひとりの状況に応じたヨーグルト・牛乳などの飲食物の工夫や、主治医や訪問看護師の協力にて薬の調整にて対応し、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2～3日に1回は入浴できるようにお誘いしている。状況により本人の意向にそえられないこともあるが、出来る限り希望に合わせて入浴を楽しめるように支援している。	入浴時には、皮膚の状態や浴槽へのまたぎなどの入浴動作の確認等の機会であることを念頭に丁寧な観察が行われている。入浴の時間や入浴剤、湯上りの化粧水など本人のこだわりについても柔軟に対応し、入浴を楽しめるような支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の睡眠サイクルを記録に記載し、一人ひとりの生活習慣や状況に応じて、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに一人ひとりの薬剤情報提供文書がファイリングしており、各自確認できるようにしている。往診時の薬の変更についても往診記録を確認するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族同意のもと、アルコールの飲める機会等、一人ひとりの入居前の意向や入居後のアセスメントを行い、その人らしい生活・役割や楽しみを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以前は毎月外食イベントの開催・近隣コンビニへの買い物を行っていたが、感染予防の為自粛している。現状は天気のいい日の外気浴・散歩・ドライブを行う等、現状できる支援をしている。	玄関の掃除や敷地内の花壇での水やりなど日常的に外気に触れる機会にあふれている。近隣の散歩や買物にも多くの方が出かけており、感染症対策を講じながら、車でドライブに出かけたり、花見をしたり様々な工夫を行いながら外出の支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方は現状いないが、管理できる方への対応として一人ひとりの希望や状況に応じて、自身で支払いを出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持たれている方は、職員の方で家族に連絡したい時につないでいる。その他の方も希望がある際は相手に様子を伝えた上でつないでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、歩行時などに過度な障害物がないように整頓し、配置を考えている。また、皆様に聞きながら季節感を感じられる掲示や居心地の良い環境になるように努めています。	リビングや廊下などのフロアの清掃や整頓には最大限の注意をはらい、利用者導線の安全管理に努めている。レクリエーション時の写真を掲示したり、ひな祭りなど季節を感じられる飾りつけ、手作りの神社など楽しく居心地の良い空間が広がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うもの同士で過ごすことができるテーブルやいすの配置や、あえて死角を作り、1人でくつろげる場所づくりも行っている。また、自室にて過ごされる時間も大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	元々生活されていた環境を感じれるように、入居時になじみのものを持参してもらえようご家族に相談を行っている。入居後、ご本人の状況に応じたレイアウトの変更もご家族に相談にておこなっている。	自宅で使用していた使い慣れたイスとクッションが配置され、写真台には若い頃の大事な写真が飾られたりとその人らしい個性の高い居室が実現している。トイレへの導線等は、本人の状態と意向に沿って、自立支援を考慮したレイアウトとなるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室には手すりが設置されている。認知症になってもできることを大切にして、ともに生活を作りあげられる様にしている。		

目標達成計画

作成日: 令和5年4月12日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議はコロナ禍のため書面開催とし、ホーム職員のみで2カ月ごとに入居者、職員、行事、身体拘束、コロナ対策、事故報告などを議題に話し合いが行われている。前回の目標達成計画に取り上げた課題、運営推進会議を活用し外部の意見を得る取り組み。	運営推進会議で外部意見を取り入れやすい工夫をする	ホーム外の方達からの意見をもらいやすいように運営推進会議でアンケートなど行う	12ヶ月
2	6	身体拘束廃止に取り組み、工夫と努力によって事例はない。管理者は職員会議の中で「どの様な行為が身体拘束になるのか」具体的な事例をあげて、職員同士話し合い、理解を深める取り組みが行われている。	身体拘束廃止委員会などで外部の意見を取り入れられるようにする	身体拘束廃止委員会や運営推進会議で外部意見をとりいれられるようにする	12ヶ月
3	26	家族アンケートでは介護計画の説明・話し合いについて不十分との声が多く、更に丁寧な説明が望まれる。	次回アンケートでは不十分というのがへらせるようにする	交付時に、ご家族様が理解できるように現状の様子など細かく伝え、ご意見や意向を確かめながら計画書の交付を行う	12ヶ月
4	35	防災訓練については、居室におけるコンセント火災や地震におけるライフラインが止まった場合などの想定については行っていない。また、BCP(事業継続計画)についての職員勉強会についても計画がない	BCP(事業継続計画)についての職員勉強会を行う	BCPが作成出来たら職員勉強会を行う	12ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。